

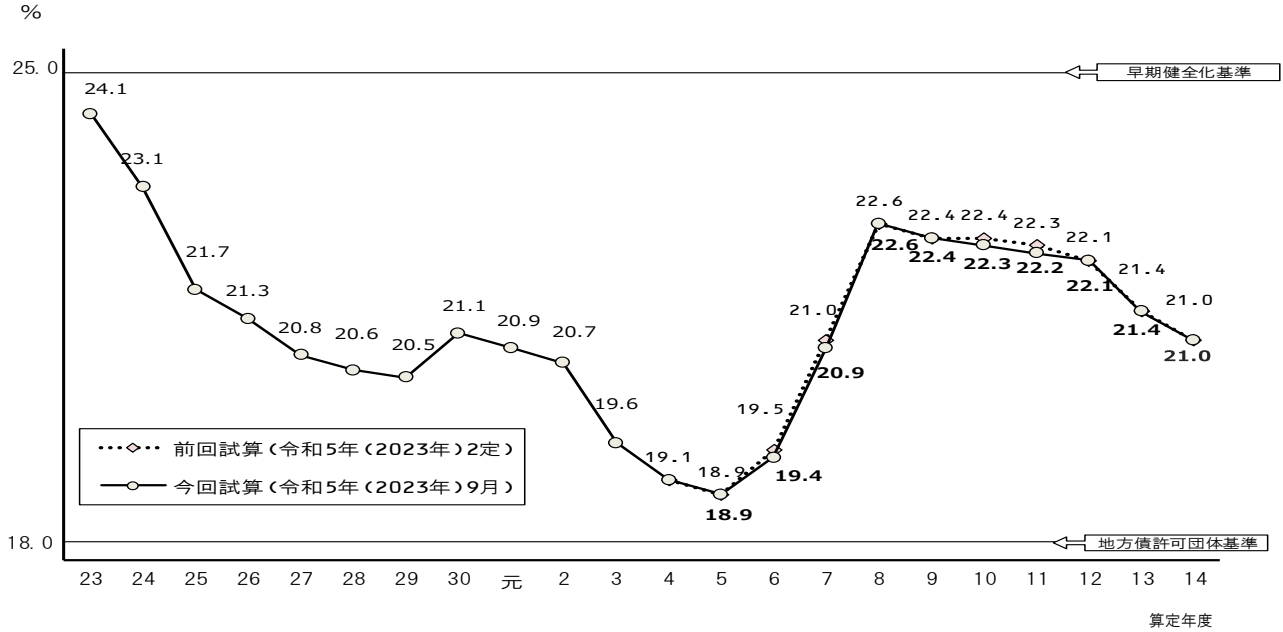
# 健全化判断比率の推移

令和5年9月

## □今回試算のポイント

- 前回試算（令和5年2定）に用いた道債の発行額や残高、金利等を実績に置き換えた結果、前回試算と比較し、実質公債費比率が最大で0.1ポイント、将来負担比率が最大で2.6ポイント低下する見込み。

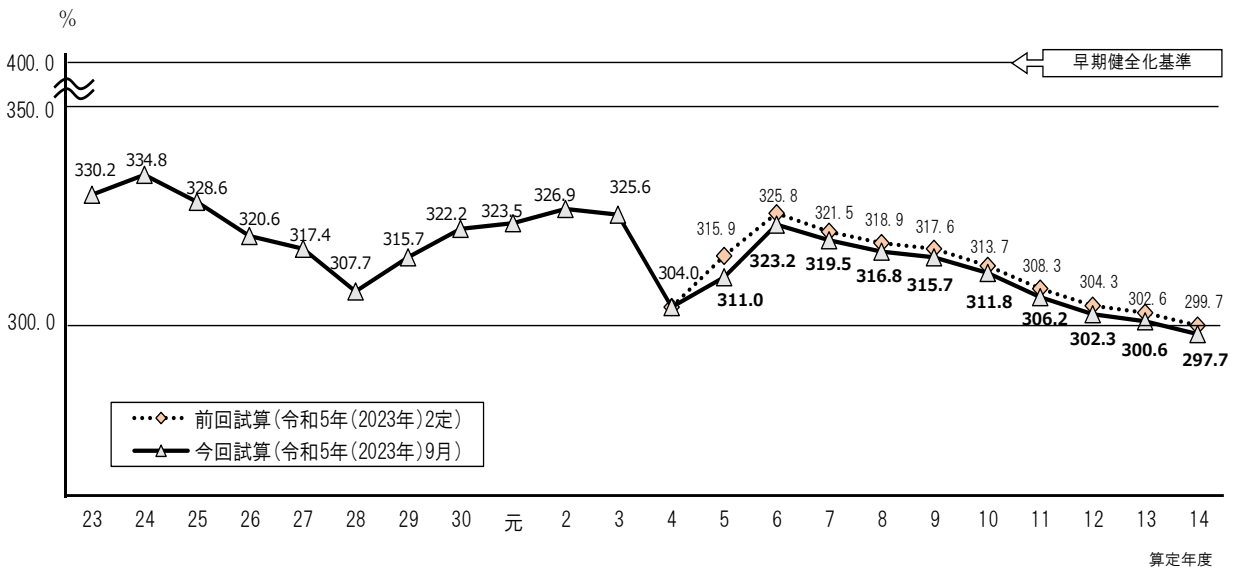
## □実質公債費比率の推移



### 【推計に用いた主な条件等】

- 年 度：算定年度（前3カ年の決算を基に算定）
- 発行額：R4年度は決算額、R5年度は年間見込額、R6年度以降は「道財政の中期展望」等に基づく。
- 金利：既発行分は発行実績、未発行分は、10年債1.1%、5年債0.8%。

## □将来負担比率の推移



### 【推計に用いた主な条件等】

- 年 度：算定年度
- 道債発行額等：R4は決算額、R5は年間見込額、R6以降は「道財政の中期展望」等に基づく。

## □今回試算に関する留意事項(共通)

今回の試算は「道財政の中期展望」等を踏まえ、一定の前提条件を置いた上で機械的に行ったものであり、金利の動向や地方財政対策の動向などの外部要因によって、試算結果が大きく変動しうるものであること。